

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1271800193		
法人名	有限会社 旅路		
事業所名	グループホーム旅路		
所在地	千葉県東金市家之子1671-31		
自己評価作成日	令和6年2月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	令和6年3月15日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

窓から外を眺めると豊かな自然に囲まれ、利用者様からも好評頂いております。一人ひとりのご要望や状態に合わせ、柔軟な態度でサービス提供が行えるよう、小規模な施設ならではの自由な発想を大事にしております。コロナ禍においてこれまで外出や外部との交流機会が減少傾向にあった為、今後それらの活動が再開・発展するよう活動を行って参ります。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

閑静な住宅地の中に「グループホーム旅路」があり、同敷地内に各ユニットが隣接して立っている。入居者の尊厳や自由を尊重したまごころのある支援を理念として掲げ、全職員が理念を理解しケアの実践に繋げている。定期的内科往診・歯科往診・訪問看護が行われており、適切な健康管理を支援している。また、医療機関との協力体制が整備されており、施設として終末期のケアの体制を整え、入居者・家族の意向に添った柔軟な支援を目指している。外出は現在コロナ禍前の状態には戻っていないため、要望や状況に応じて支援しており、散歩や外気浴に加え、ドライブや買い物等は日常的に行っている。年間行事として、初詣、お花見、ピクニック等の季節の行事を実施しており、感染対策を講じながら、戸外での楽しみを支援している。また、施設の駐車場を活用し、芋煮会・バーベキュー・流しソーメン等を実施しており、入居者の気分転換や生活の活性化に繋げている。その他にも、大学の学園祭でのヤギの餌やりや動物セラピーの体験を通して、癒やしを与える機会も取り入れている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらい			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらい				
			3. 利用者の1/3くらい				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に運営理念を掲示。新入職員への教育や日々の業務での指針として共有している	「その人らしく自由に生活できるためのところのある介護サービスの提供」を運営理念に掲げ、パンフレットやホームページに明記している。また、運営理念を事業所内に掲示し、職員や外部の人達へ周知している。定期的に会議や研修を通して、サービス提供場面の振り返りや理念に基づくケアの確認を行う等、理念を意識したケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区民生委員との交流を持つ。また、散歩や移動スーパーへの買い物等で近隣住民との交流の機会や地域の節分行事に出かける等行っている	自治会に加入していると共に、日頃から近隣住民とは散歩時の挨拶等通して良好な関係を築いている。コロナが5類に移行し、感染対策の緩和はされているが、コロナ禍前の状態には戻っていないため、地域との交流機会は控えている。但し、移動スーパーへの買い物や地域住民からの差入れもあり、入居者が地域の一員として繋がりが続けられるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症介護の経験を地域住民に対し活かす機会は少ないが、外であった時等認知症高齢者と直接挨拶する機会がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて活動報告を通じてご意見や新たな取り組みのアイデアを伺っている。また、コロナ禍以降面会のあり方ご家族や周辺施設の状況等伺いその意見を取り入れている	市職員・地域包括支援センター職員・民生委員・町内会会長・利用者・家族・施設職員等を構成員として、年6回、運営推進会議を開催している。会議では施設の活動報告や意見・情報交換を行っており、サービスの向上に活かしている。その他にも、身体拘束を議題にしており、身体拘束をしないケア実践に向けた施設の工夫や取組を伝えている。	

【千葉県】グループホーム 旅路

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者や地域包括職員との連絡を密に摂っている。	市とは業務に関する相談や報告と共に、運営推進会議等を通して連携を図っている。また、定期的に東金市高齢者支援課・社会福祉課・地域包括支援センターの職員が来訪しており、現場や入居者の実情を伝える等、協力体制を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は原則禁止している。毎月会議内にて身体拘束に関し議題に取り上げ、運営推進会議でも議題としている。夜間職員1名配置の際は玄関の施錠をしている。	身体拘束排除における施設方針やマニュアルが整備されており、施設内に掲示している。また、年間研修計画を基に、内部研修が年2回実施されており、全職員が身体拘束排除における意義を理解している。また、身体拘束適正化検討委員会を運営推進会議と同時開催しており、施設の仕組みや方針を地域の人達に明確にしている。委員会議事録については、全職員へ回覧を義務付けており、周知徹底及び意識共有を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回、虐待や身体拘束・高齢者の尊厳保持に関する内部研修の機会を設けている。また毎月会議内にて身体拘束実施がない事・または必要性があるかを確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業制度に関しては在宅時に利用している利用者も存在していたが、入所に伴うご家族の支援等により不要になる事が多い。入所後もその必要性を見落とさない様検討を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に入所の際の契約時に説明を行う。利用者の理解が十分でない事が予想される場合はご家族への説明を行い同意を頂いている。		

【千葉県】グループホーム 旅路

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議等で頂いたご意見は施設内にて検討・サービスへの反映を行っている。また、DNR意思や終末期の意思確認を入居時だけでなく状態に合わせ複数回行う等意思確認の機会を持つ	面会や電話連絡、運営推進会議を通して、家族の意見や要望を確認している。挙げた意見・要望においては、会議や申し送り時に周知・検討を行い、適切な対応に努めている。定期的に日々の様子や健康状態を綴った「健康たより」を家族に送付しており、日頃の取り組みを伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々意見・提案を確認する機会を持ち、定例会議内においても意見確認を行っている。	定期的に会議を開催しており、職員から挙げた意見・情報・提案等を施設運営に活かしている。また、日頃からコミュニケーションを図るよう心がけており、管理者が職員と個別に話す機会を設けており、職員一人ひとりの目標・希望・人間関係等を把握している。業務においては、業務管理システムを導入しており、介護記録や職員間の申し送り等のサポート機能の活用により、職員の業務負担の軽減や情報共有に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の実績や勤務状況により役職手当や準社員制度・時給の割り増し・夜勤専従職員等働き方に合わせた柔軟な環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修においては外部動画サービスを活用し、広い視野での研修が受けられるよう図っている。外部研修においても個々の事情に合わせ勤務日等配慮している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会への参加を行っているが、コロナ禍以降参集が行われていない。必要に応じお互いに連絡・相談が行える関係は続いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居以前に意向や要望の確認を行うと共に、入居後の状況に合わせ本人の以降を日々確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居以前にご家族の要望や意見を伺い、サービスの導入にて解決できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居施設である関係上、他介護保険サービスの利用に至った事は無いが、医療機関や地域包括等と連携し、ご本人・ご家族がその時必要な支援が提供できるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者自身も家事活動に主体的に参加する場面があり、役割を持っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の関わりは各家庭により大きく違いが見られるが、面会や電話・手紙等自由に連絡・相談できる機会を設け関係構築・維持を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や連絡の相手は基本的に制限していない。また、馴染みの場所との関係については要望もしくは表明していない思いも含め柔軟な対応が取れるよう図っている。	家族との面会や外出・外泊が自由となっており、家族関係継続を支援している。また、散歩やドライブ等を通して、馴染みの場所とのつながりも大切にしている。その他に、移動スーパーや道の駅での買い物等、入居者一人ひとりの要望や生活習慣を尊重しながら、継続的な交流ができるよう働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はリビング等共同の場所で過ごされる利用者が多く、それぞれの関係や役割を持って過ごしている。		

【千葉県】グループホーム 旅路

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了が最期である事が多いが、入院やご自宅で終末期を過ごされる方等、各所への情報提供やご家族との連絡等最期まで関係を継続できるよう図っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前に意向の把握を行い、入所後、生活環境の変化の後の意向についても日々把握に努めている。	入所前の面談にて、本人や家族から意向・生活歴・身体状況の確認を行うと共に、医療機関や他事業所からの情報収集にも努めている。また、日頃の生活観察や会話等から意向や思いを汲み取っている。記録や会議を活用しながら、職員間で意見交換や情報を共有する等、入居者本位のサービス提供に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に生活歴や環境・サービス利用の経過等把握につとめ、入居後も生活歴のディテール把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設内において行動を制限しない様配慮し、好きな場所で好きな活動が行えるよう配慮している。能力や意欲に応じ家事活動にも参加して頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を確認し、医療職の意見等にも配慮をした計画作成に努めている	入居者・家族の意向を確認していると共に、医師・看護師の意見も取り入れて、会議にて検討し、介護計画を作成している。定期的に介護計画の評価・見直しを行っており、現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録・申し送りを積み重ね情報の共有・介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	都度のニーズに合わせ、柔軟な対応が行えるよう図っている。本人の要望や意欲に合わせ個人に対し多様な活動を提供している。		

【千葉県】グループホーム 旅路

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	能力や意欲に合わせ、時に利用者同士で面倒を見合う状況があり、家事活動においても主体的に参加する等能力を発揮できる機会が持てるよう図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には提携医療機関にて医療を受ける機会を確保しているが、これまでの関係や必要な医療に応じその他の医療機関への受診を支援する等適切な医療提供がなされるよう配慮している。	家族の協力及び職員の同行により、希望する医療機関の受診を支援している。また、月2回、協力病院の医師による内科の往診が実施されていると共に、訪問歯科も行っており、医療機関と密接な連携を図っている。緊急時や急変時には、協力病院の医師との連携により、迅速な対応に努め、入居者や家族の安心に繋げている。その他にも、週1回、訪問看護を導入し、健康管理・医療処置・相談等が行っており、入居者や家族の安心に繋げている。希望に応じて訪問リハビリを実施しており、心身機能の維持・回復を目指している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との情報共有や相談を定期的に行い、利用者が必要な医療提供を受けることができるよう配慮している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時はサマリー等の書面・直接面会・カンファレンス・電話連絡等で情報共有・交換に勤めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所初期の段階での意思確認を行い、本人の状態変化に合わせ改めて意思確認を行う等意向共有を図っている。また、その意思表示は医療とも共有し、終末期のケアの指針に活かしている。	契約書に看取りにおける指針を明記しており、説明の上、同意を得ている。必要時には、医療関係者との相談や医療支援及び入院の受け入れ等が行われており、医療機関との協力体制が整備されている。施設として、看取り支援の経験を活かし、入居者・家族の意向に添った柔軟な支援を目指している。	

【千葉県】グループホーム 旅路

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応を抜粋した資料や内部研修にて急変や事故発生時に関する情報提供を行う。また、緊急時速やかに管理者に連絡が取れるよう図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、これまでの経験や地域の状況を踏まえ、避難先の確認・施設に留まる際の備え、災害からの復旧までの対応を準備している	スプリンクラー・自動通報機・火災報知機等の消防設備を設置していると共に、災害時の備蓄品も備えている。消防避難自主訓練を年に2回実施しており、日中や夜間を想定した訓練や消火器・通報訓練等を実施し、災害時の対応を身に付けている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格が尊重されるよう図り、排泄に関する事等プライバシーを損ねないよう配慮をしている	プライバシー・接遇マニュアル等を整備していると共に、研修や会議を通じて全職員に意識浸透を図っている。日々の支援においては、日頃から入居者の気持ちに配慮し、職員間で理念を意識し合いながら、ケアの実践に取り組んでいる。その他にも、新人研修では接遇マナーを取り上げており、人格を尊重した言葉かけや対応を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で意向の表明や自己決定の機会を損なわない様配慮し、なるべく自由な形で活動できるよう図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合わせ、居場所や活動等自己選択に基づいた過ごし方ができるよう図っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の求めに応じた身だしなみで過ごす事が出来るよう配慮している。衣類購入の際の意向の確認やこれまで着用の習慣のあったエプロンの用意等行っている		

【千葉県】グループホーム 旅路

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は好みや求めにより肉・魚の変更や量の調整を行っている。下膳や食器洗い拭き等能力に応じ利用者自身が行っている。	食事の準備及び調理は職員が行っているが、食器洗い等の片付けは、入居者と共同で行っている。献立や食材は、業者に委託しているが、季節に応じた行事食、誕生会の際のリクエスト食やケーキの提供を行っている。また、手作りおやつ、お寿司や弁当等のテイクアウトの活用、駐車場で流しソーメン・芋煮会・バーベキュー等、様々な食事メニューや雰囲気作りを工夫し、入居者の生活活性化に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専門業者を通じ適切な量・バランスの提供がなされるよう献立を用意している。食事量・水分量を記録し、利用者の状態に合わせた食事形態の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人の能力に応じた口腔ケアがなされるよう配慮している。歯科往診による治療や指導も受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状態に合わせてオムツ類の使用を行うが、原則トイレでの排泄習慣が保たれるよう利用者個人に合わせ誘導を行っている。	排泄状況は業務管理システムの記録機能を活用しており、回数や医師からの指示等の支援内容を全職員が共有している。入居者一人ひとりの排泄パターンの記録を基に、トイレ誘導や声がけを行う等、排泄の自立に向け支援している。また、水分補給・乳製品や海藻の摂取に加え運動を取り入れる等、自然排便を促す工夫がなされている。必要に応じて、医師や看護師に相談し、適切な排便コントロールに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘状態・傾向に合わせ医療職への相談や飲食物の形態工夫を行っている。		

【千葉県】グループホーム 旅路

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に施設側で入浴機会の確保を行うが本人の求めにより日程や時間を変更する等柔軟に対応している。	入居者の希望や体調に応じて、回数・時間等を調整し、適切な入浴機会を確保している。必要に応じて、清拭や部分浴を実施しており、入居者の清潔保持に努めている。また、移動式リフトを設置しており、入居者の身体状況に合わせた入浴支援が行われている。業務管理システムの記録機能を活用して記録されており、入浴回数の変更等を全職員が共有している。季節に応じた柚子湯等も実施されており、入浴が楽しみになるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	明確な就寝時間を定めず、本人の意向や習慣に合わせ自由に休めるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の説明や薬剤師からの情報・状態の変化を記録・申し送りし状態の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの要望や能力に合わせ、柔軟にサービスを提供する事で役割や楽しみのある生活となるよう図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と一緒に外に出られるよう配慮し、利用者の要望に合わせ外出先を検討する等行っている。コロナ禍意向ご家族との外出はできていなかったが、条件の緩和・外出支援を図っている。	外出は現在コロナ禍前の状態には戻っていないため、要望や状況に応じて支援しており、散歩や外気浴に加え、ドライブや買い物等は日常的に行っている。年間行事として、初詣、お花見、ピクニック等の季節の行事を実施しており、感染対策を講じながら、戸外での楽しみを支援している。また、施設の駐車場を活用し、芋煮会・バーベキュー・流しソーメン等を実施しており、入居者の気分転換や生活の活性化に繋げている。その他にも、大学の学園祭にも出かけており、ヤギの餌やりや動物セラピーの体験の場を提供している。	

【千葉県】グループホーム 旅路

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力や求め・家族の意向に合わせて柔軟に対応しており、原則現金所持は禁止していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	連絡の制限はしていない。個人の携帯電話の持ち込みも制限していない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓からの風景を好まれる利用者も多い。照明も暖色の活用を行っている。また共用部には季節感のある掲示を行い、居心地のよい空間づくりを図っている	施設内はバリアフリー環境が整っており、十分な介助スペースが確保されている。また、エレベーターが設置され、入居者の身体状況や安全面に配慮した設備環境が整備されており、入居者・家族の安心と自由な生活に繋がっている。施設共有スペースには、椅子・ソファ等が設置され、入居者が自由にくつろげる環境作りがなされている。また、写真・作品の掲示や季節飾りを施し、明るく楽しい雰囲気作りに努めている。日当たりの良いウッドデッキは、お茶のみや日光浴の場として活用し、外の空気を楽しめるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所定の居場所の用意は行っているが、共用のソファの使用や利用者同士好きに移動して交流を持つ状況が見られている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの要望に合わせて、自宅から持ち込んだものを利用して頂いている。	入居者・家族が馴染みの家具等を持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活ができるよう配慮している。クローゼットや鍵が設置され、プライバシーの確保がなされている。居室の入口には、表札や好みの飾りつけが施されており、入居者の個性を反映し、その人らしく暮らし続けられるよう工夫されている。その他にも、センサーの活用や居室内の配置の工夫により、安全・安心な環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その時の利用者の状態に合わせて手すりの設置を行う等安全対策を柔軟に行っている。また、動線には掴まる所の整備や見通しの確保を行い安全に自分の意思で活動できるよう図っている。		